

政策分野	004	産業	政策項目	003	観光・交流	施策	001	観光・交流の推進	担当課	商工観光課・賑わいグループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
104	ファブラボ栗山を運営し、ものづくりを通じた「まちの未来を開拓する担い手」づくりを推進します。							充実	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I 参加促進サービス等実施回数（単位：回）	20	87	87	145	139	72	83%	I 参加促進サービス等実施回数：上記事業概要①における見学会（月1回）、オープンラボ（週1回）、ワークショップ（月2回）などの実施回数。R8までに年間87回を達成し、以降は維持する	
	II 情報発信回数（単位：回）	30	111	111	151	139	67	60%	II 情報発信回数：上記事業概要①における専用ウェブサイト更新（月2回）、SNS投稿（Facebook月2回、Instagram週1回）、チラシ配布（月1回）などの回数。R8までに年間111回を達成し、以降は維持する	
成果指標	I 利用者登録人数（延べ）（単位：人）	60	100	140	142	195	225	225%	I 利用者登録人数（延べ）：上記事業概要①における安全操作講習を修了して利用者登録を行った人数。年間10人の増加を見込む	
	II 利用者によるプロジェクト実施件数（単位：件）	0	5	5	2	1	1	20%	II 利用者によるプロジェクト実施件数：上記事業概要①及び②において利用者（地域おこし協力隊を含む「まちの未来を開拓する担い手」）が立案して実施したプロジェクト件数（個人や地域の課題解決に向けた作品づくり、取り組みなど）。R8までに年間5件を達成し、以降は維持する	

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	令和5年1月より栗山駅南交流拠点施設内にて「ファブラボ栗山」として本格運営を開始。その運營業務については前年度に引き続き元地域おこし協力隊2名が起業した合同会社へ委託し、新規利用者や継続利用者の獲得に向けて、情報発信を行いながら各種サービス（見学会、はじめてラボ、オープンラボ、安全操作講習、工作設備貸出、ものづくり体験ワークショップ、発表展示会など）を提供した。上期においては、前年度の試行を踏まえたオープンラボの定員の増加、他のイベントとの運動や客層に合わせたワークショップ内容の改善、地域課題プロジェクト（北学田記念碑3Dアーカイブ・立体保存）の実施、道外のイベントへの出展による町外者に対するPRなどを新たに行った。また、ファブラボ栗山の役割としている「まち未来を開拓する担い手づくり」の実現に向け、地域おこし協力隊1名を5月より採用・育成し、人材育成モデルづくりの実践・検証、運営体制の強化を図った。
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	活動指標 I 及び II ともに、新規利用者の獲得と、利用者の着実なステップアップに向けて委託事業者とも協議しながら改善を行い、当初の計画以上に実施回数を重ねている。その結果、成果指標 I のとおり目標値を上回る利用者登録（安全操作講習参加）につながっている。一方で、成果指標 II としている利用者（主に継続利用者）によるプロジェクト実施件数については、現時点においては利用者による実績がなく達成率が低い、純粋な利用者は趣味や仕事として成果物が決まっている状態での利用が多くプロジェクト化に至っていない。
課題・問題点	現状においては、まだまだ町民等の認知度が低く、ユーザーが常連化しており新規ユーザーの獲得率が伸び悩んでいる。利用者の多くは中高年層が多く、若年層の利用が少ないため、幅広い年代が利用できる環境整備も必要となっている。また、安全操作講習受講後において、加工データの作成や工作機械の操作に不慣れなためスタッフのサポートを望んでオープンラボ（無料サービス）に参加する利用者が増加傾向にあり、そこから工作設備貸出（有料サービス）を利用して自発的にものづくりを行う段階に進む方を着実に作っていくための仕掛けが必要となっている。成果指標 II としている利用者によるプロジェクト実施件数についても、利用者に対してプロジェクト化を促すような仕掛けが必要となっている。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	引き続きサービスや情報発信の方法を工夫しながら進めてくほか、町内施設等や他事業とも連携して町民等とのタッチポイントを増やす取り組みを充実させ、ファブラボ栗山に対する興味関心と行動喚起につなげる。若年層に向けては、ものづくり体験ワークショップやイベントの更なる魅力化を図るほか、学校教育分野との連携を進めて学校授業に取り入れてもらうための協議を進める。また、まだ安全操作講習や工作設備貸出のサービス提供ができていない機材の利用を開始し、利用者自身で行えるものづくりの充実化を図っていく。成果指標 II としている利用者によるプロジェクト実施件数の増に向けては、利用者等に理解を深めてもらう機会づくりとして、簡単な地域課題に取り組んでもらう体験版のサービスを試行・検証しながら具体的な改善策を検討していく。
--------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 個人による自由な発想で様々なものづくりが可能でファブラボづくりやまでであるが、施設におけるデジタル工作機等の認知度及びものづくりに対する興味関心を掘り起こす事業展開は、引き続き創意工夫し、幅広い年齢層が利用できる施設を目指すこと。また、一部有料化によるワークショップの実施など、町民はもとより、札幌圏を中心とした積極的な啓発活動に努めること。
2次評価 (副町長)	①計画通りに進める 一次評価結果に加え、今後の事業展開や運営体制の在り方を含め、委託事業者と十分協議検討を進めること。
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	二次評価のとおり。

政策分野	004	産業	政策項目	003	観光・交流	施策	001	観光・交流の推進	担当課	商工観光課・賑わいグループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
105	地域資源を磨き上げ観光・交流による地域経済活性化を推進します。							充実	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I イベント運営・支援・連携回数（単位：回）	0	32	36	25	30	19		59%	I イベント運営・支援・連携回数：ブランド推進課（事務局を担う関係団体含む）が主催するイベントの運営回数、栗山町3大イベント（老舗まつり、夏まつり、秋まつり）をはじめとする町内イベントの支援回数、栗山駅南交流拠点施設を活用した連携イベントの実施回数。令和12年度までに36件（月平均3件程度）まで増加させる
	II 栗山駅南交流拠点施設情報発信・PR回数（単位：回）	0	980	1,200	736	997	1,252		128%	II 栗山駅南交流拠点施設情報発信・PR回数：施設専用ウェブサイト掲載、SNS投稿、チラシ配布、プレスリリースなどの回数。開館初年度（令和5年度）の実績を基に、以降は前年対比1.1倍で推移しながら最大1,200回（100回/月）まで増加させる
成果指標	I 観光入込客数（単位：人）	165,500	365,700	535,500	301,800	297,300	※11月確定		事後評価で集計	I 観光入込客数：観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき実施している観光入込客数。令和8年度までに新型コロナウイルスの影響前（令和元年度）同数の365,700人を達成し、以降は前年対比1.1倍で推移する
	II 栗山駅南交流拠点施設来館者数（単位：人）	0	36,300	53,147	30,824	37,365	28,304		78%	II 栗山駅南交流拠点施設来館者数：施設来館者の延べ人数。開館初年度（令和5年度）の実績を基に、令和6年度は30,000人を維持し、以降は前年対比1.1倍で推移する ※栗山駅南交流拠点施設は関係人口（活動人口）を創出することを役割としている

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	栗山町観光振興計画（第1期）前期である今年度は観光情報に特化したウェブサイトの作成及び定期的なイベント情報等の発信を行った。イベント開催など関係団体の支援、イベント開発・強化、観光パンフレット製作やSNS運用などの情報発信、まちなかレストランによる食の魅力化などは観光振興計画とも整合を図りつつ、昨年度に引き続き計画通り進めている。栗山駅南交流拠点施設の管理・運営については、積極的な情報発信・PRをはじめ、他施設やイベントとの連携を図りながら各種サービスの提供やスペースの貸出などにより、誘客及び使用の促進を行った。
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	活動指標 I 及び II ともに目標値通りの達成率となっている。成果指標 I については11月に確定するため事後評価において分析を行うが、影響の大きい町内三大イベント（老舗まつり、夏まつり、秋まつり）の観光入込客数は前年度を上回る見込みとなっている。成果指標 II については上半期だけで28,304人（180.28人/日）となり目標値33,000人に対しては83.4%と大きく上回るペースとなっているが、上記の主な事業実績の効果として、施設の利用者（くりふとキッチン出店、イベント開催など）が増加し、それに伴う来館者が増加したものと考えられる。
課題・問題点	目的や目標値の達成のためには、本事業全体の指針や具体的な取り組みを示す観光振興計画、それを実行するための新たな観光推進体制の構築を早急に進める必要がある。指標値（目標値）は観光振興計画で示す戦略内容に応じて適切な設定を見直す必要がある。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	観光振興計画に関連して個別事業を具体化していく。中でも栗山煉瓦創庫くりふとにおける観光案内窓口運用の実施に向けて関係機関との情報共有等図っていく。また、国等の財政的支援策を着実に活用できるよう、情報収集や手続きを進めて行く。栗山駅南交流拠点施設（栗山煉瓦創庫くりふと）については、更なる来館者数増に向けイベント等の充実を図っていく。
--------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 令和6年度に策定した観光振興計画（第1期）に基づき、各種イベントや観光情報等の情報発信に力を入れ、特にSNSを活用した情報発信については、くりふとをはじめ、町内各施設との連携を図り、誘客及び利用者促進に効果が表れてきた。3年目を迎えたくりふとについては、認知度も増加し、来館者数に加え、キッチン等の施設利用者も増加している。今後も、季節ごとに創意工夫したイベント・行事を行い、多くの使用者増に努めていくこと。
2次評価 (副町長)	①計画通りに進める 一次評価結果に加え、商工会議所と連携を図りながら、新たな推進体制の構築、また、外部評価における町内事業者や住民との連携による事業展開、多様な世代との交流促進、事業展開など、検討を進めること。
外部評価	①計画通りに進める 栗山町政策評価委員会報告書のとおり。
最終評価 (町長)	①計画通りに進める 二次評価のとおり。

政策分野	004	産業	政策項目	003	観光・交流	施策	001	観光・交流の推進	担当課	定住推進課定住推進グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
106	栗山町への移住・定住を促進します。							充実	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I 移住相談件数（単位：件）	130	150	150	166	127	68		45%	I 移住相談者には、支援制度をはじめ、仕事や住まい冬の生活に対する不安など、細やかに対応する
	II 空き家バンク登録件数（単位：件）	7	20	25	19	17	3		15%	II 空き家バンクの登録数を増やし移住に繋げる
成果指標	I 社会減数の減少（単位：人）	-54	-49	-44	-21	-86	3		57%	I 移住相談に直結するのは、空き家を含む居住に関する相談のため、空き家バンクの登録件数を増やして、移住希望者のニーズにあった住宅のマッチングに努め、社会減を少なくしていく R3年度：転出者446人・転入者329人（減少率を10%ずつ回復させる目標）

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	移住コーディネーターの配置による決り細やかな移住相談や、くりやま移住促進協議会の運営による各種事業（くりやま暮らし体験（9組）、若者子育て世代向け「くりやま暮らし体験モニター」（3組）、道外の移住フェア等の出展（7回））をはじめ、移住相談には欠かせない空き家相談体制の強化を実施した。地域おこし協力隊（空き家アドバイザー）による空き家所有者への意識啓発や相談を行い、「空き家バンク」に掲載する土地・建物の物件の充実を図り、空き家流通促進に取組んだ。
施策の分析 （目標達成・未達成に関する要因分析）	移住者相談に関しては、対面式での移住相談会・オンラインでの移住相談に加え、来庁の相談も増加しており、移住コーディネーターによる様々なニーズに対応した相談対応を行っている。空き家バンク登録については、町内の空き家所有者への積極的な周知を図っている成果もあり、年々空き家バンク登録が増えてきている。
課題・問題点	空き家所有者からの相談はあるが、利活用につながる割合は、まだ低いのが現状なので、空き家の掘り起こしは必要である。今後も、空き家所有者だけでなく、予備軍世代にも理解を深めてもらい、利活用の促進につながるよう啓発をしていく。

今後の展開・方向性 （国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等）	空き家の窓口相談強化を図るべく、周知活動や、説明会・講演会の実施など「空き家バンク」の利用促進を促進する。 併せて、移住検討者の求める、住まいや職への相談をスムーズに図れるよう関係機関との連携を図り、移住コーディネーターや空き家アドバイザーによる相談体制を強化する。
--------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 （担当課長）	①計画通りに進める 近年、多様な住まい方（二地域居住やワーケーション）を検討される方も増え、そういったニーズにも対応できるよう新たな取り組みも検討する段階になっている。 空き家バンクについても、空き家の流動化の効果がでており（R6販売実績17件）、今後も継続し進めていくことで、空き家の解消につなげていく。
2次評価 （副町長）	①計画通りに進める 一次評価結果に加え、空き家利活用プラットフォームについては、より効果的な運用が図られるよう対策を講じること。
外部評価	※評価対象外
最終評価 （町長）	①計画通りに進める 二次評価結果に加え、空き家リフォーム助成事業については、別事業において若者移住促進事業として行っている中古住宅リフォーム助成との棲み分けに留意しながら、後期実施計画策定において整理を行うこと。

政策分野	004	産業	政策項目	003	観光・交流	施策	001	観光・交流の推進	担当課	定住推進課定住推進グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
107	「くりにイトするまち栗山町」の地域ブランドイメージを活かし、関係人口となる「ひと」呼び込みます。							充実	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I SNSによる情報発信（単位：回）	106	120	130	201	118	292		243%	I 若者シティブロモーション事業で開設したInstagram「ほっどらいふ」での情報発信回数
	II 関係人口事業の参加者数（単位：人）	80	90	100	106	41	71		79%	II 食の交流・ワークショップ・広域連携事業等の参加者数
成果指標	I クリエイター定着事業参加者数（単位：人）	24	30	30	24	18	20		67%	I 町外クリエイターズマーケット出展者・ワークショップ実施者
	II 関係人口事業の参加者の満足度（単位：%）	-	90	95	93	-	-			II 事業参加者にアンケートで満足度や改善点を調査し、継続した関りを持てるよう次につなげる

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	クリエイター活躍促進事業：クリエイターズマーケットの運営(出展作家20者)・クリエイター中長期滞在支援事業（1人） 情報発信事業：くりやマニアvol.9作成・Webサイトでの情報発信 関係人口創出事業：食の交流事業（札幌ベルエポック製菓調理専門学校 延56人）・栗山町まちづくり塾（参加町民 15人）
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	SNSくりにやまほっどらいふでの情報発信に加え、Webサイトや、くりやマニアの発行を通じて情報発信を行った。 クリエイターズマーケットの出展については昨年より申込が減少傾向であるため、追加募集を行っている。出展作家の発信するSNSによる町外の来店者もあり、関係人口の創出に繋がっている。栗山町まちづくり塾では参加している若い町民が意欲的に活動しており、町内イベントへの出店などを通じて、今後のまちづくり活動のリーダー育成につながることを期待している。
課題・問題点	クリエイターの中長期住宅支援を新たに創設しアパート1戸を準備し1件の利用があったが、利用者の増加につながらず、クリエイターのニーズに合わせた住居支援が課題となる。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	情報発信事業や関係人口創出事業は、一定の成果は得られたとことで、今後、その手法も含めてどのように実施していくか検討が必要である。 栗山町まちづくり塾は、若い世代の町民が長期に活動できる事業となり、地域の活性化に繋がるよう支援していく。
--------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	⑤抜本的見直し クリエイターズマーケットについては、くりにやまが同様の目的をもって進めており一定の役割を果たしている。食の交流事業については、学生たちへの現場実習の提供にとどまっており、農林課や農業振興公社で実施する農業振興に近い内容となっている。 まちづくり塾についても内容が研修することがメインとなっており、今後は関係人口創出の実践的な取り組みを検討する必要がある。 くりにやまについては、魅力の発信としては年1回では情報量が乏しく、費用対効果も悪い。近年電子媒体が主流となっていることから、動画配信やホームページ更新に転換する必要がある。
	③改善を検討（事業内容） 本事業における課題を再整理し、目指す成果につなげるために必要な事業内容について、後期実施計画策定に合わせて検討すること。
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	③改善を検討（事業内容） 二次評価結果のとおり。